

経営比較分析表（令和4年度決算）

京都府福知山市 福知山市民病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	300床以上～400床未満	自治体職員
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	27	対象	ド透I未訓ガ	救臨が感へ災地
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
76,075	32,284	-	第2種該当	7：1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
344	-	6
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	4	354
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
344	-	344

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
—	類似病院平均値（平均値）
【】	令和4年度全国平均

公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 (従来の再編・ネットワーク化を含む)	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

当院は、救命救急センター、地域がん診療連携拠点病院、第2種感染症指定医療機関、災害拠点病院、周産期医療病院、中丹地域リハビリテーション支援センターに指定されるなど、京都府北部の医療拠点として高度・専門的な医療の提供とともに、医師、看護師等の医療人材の養成施設としての役割を担っている。また、令和4年1月からは地域医療支援病院の承認を受け、地域医療の確保を図る基幹病院としての役割を担っている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支は100%を上回っており経営状況は概ね良好である。患者総数の増加に加え、がん治療・血管内治療などの高度医療や手術件数の増加、新型コロナウイルス専用病床の運用などにより診療単価が上昇し、医療収益は前年度に比し6.7ポイント上昇した。一方で、がん治療薬をはじめとする高額薬品や診療材料などが増えたことによる材料費の増加、設備修繕等による経費の増加などにより医療費用は前年度に比し5.8ポイント増加したものの、医療収支比率、経常収支比率ともに前年度を上回り、当年度においても純利益を計上した。

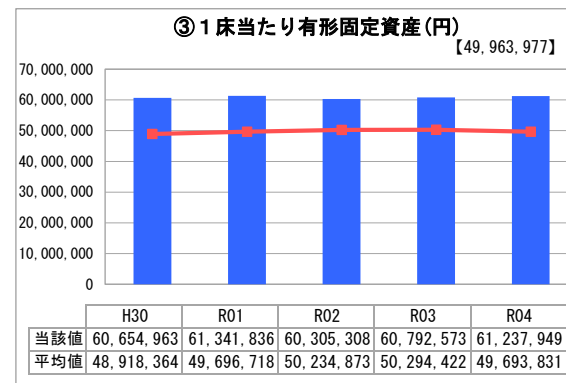
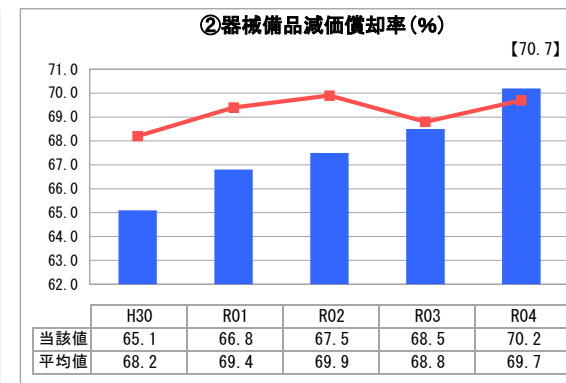
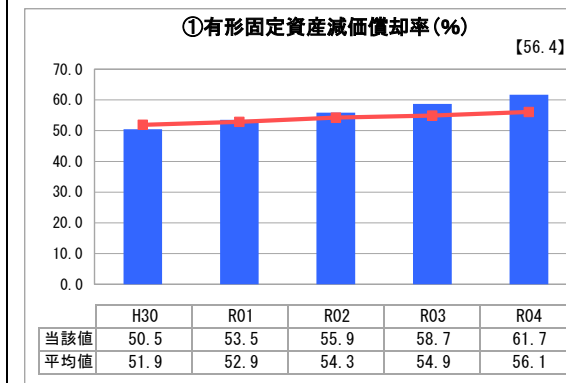
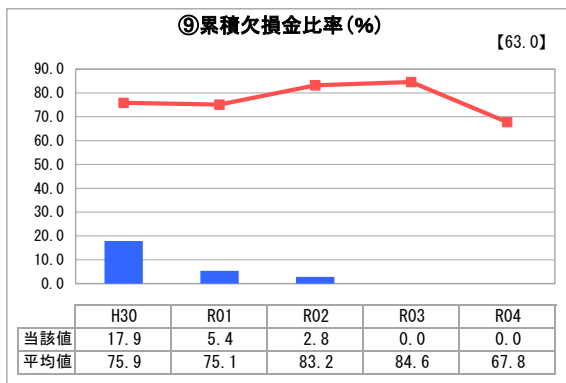
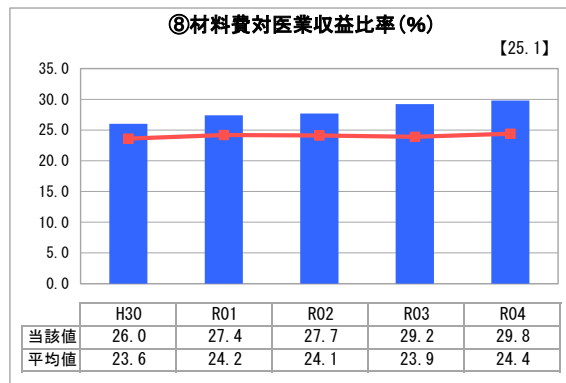
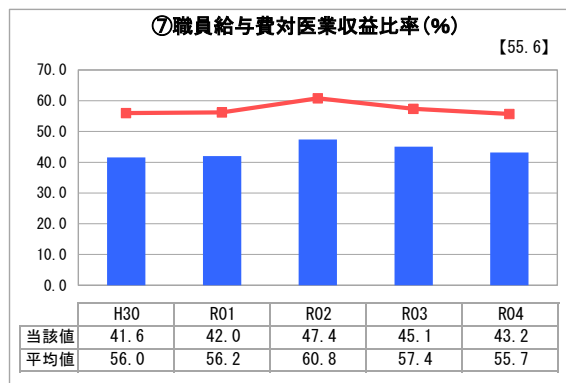
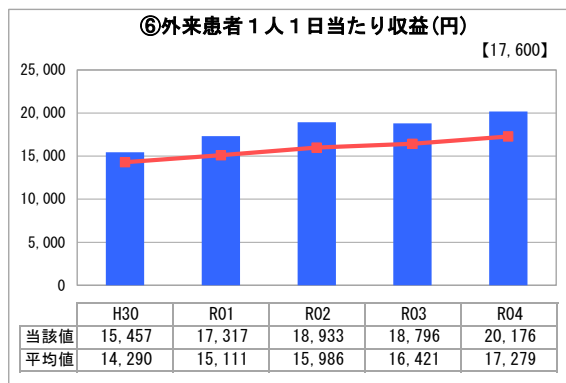
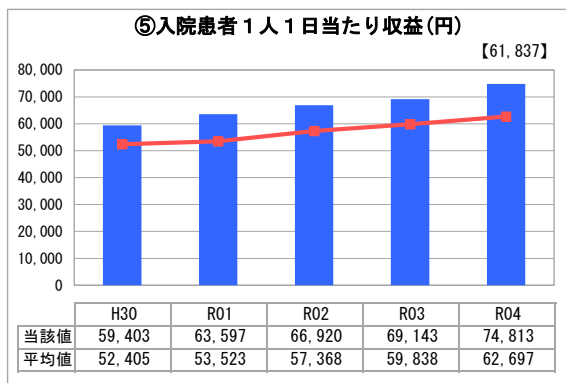
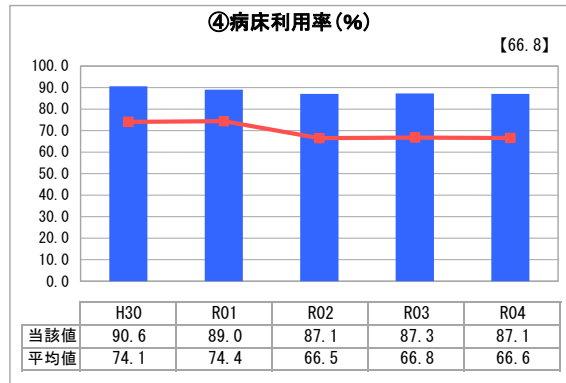
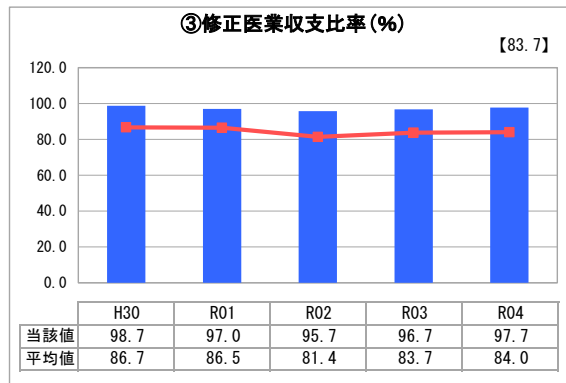
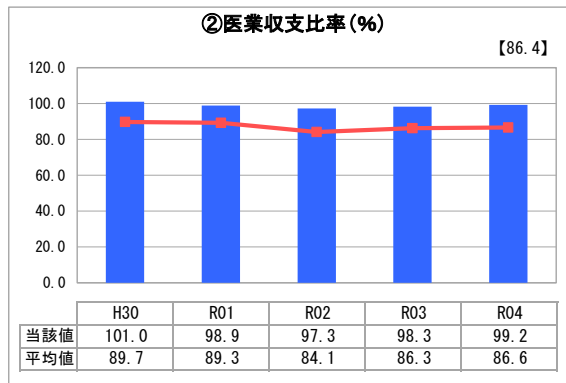
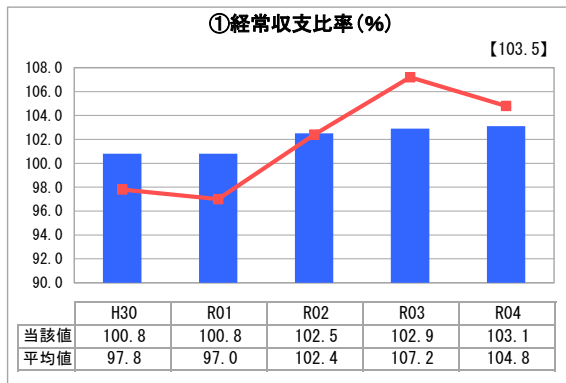
2. 老朽化の状況について

平成18年の病院全面改築から16年を経過し、耐用年数を迎える建物設備が多く、順次更新や修繕を進めている。医療機器等の更新を順次進めているが、平成29年度に導入した医療情報システムや平成30年度に導入したリニアック装置など高額医療機器の減価償却が進んだことにより、器械備品の減価償却率は平均を上回っている。なお、地域の中核病院としての医療ニーズに応えるため、リニアック装置やMRI装置などの大型で高額な機器や施設を整備しているため1床当たりの有形固定資産額は多くなっている。

全体総括

患者総数の増加と医療の高度化による診療単価の上昇により、収益の伸びが費用の伸びを上回り、昨年度に引き続き当年度純利益を計上することができた。なお、全面改築から16年を経過し、今後は施設・設備の経年劣化による維持管理や更新、大型医療機器の更新等に多くの費用を要することが考えられるため、今後の人口動態、疾病構造、医療政策などを的確に把握し計画的で合理的、効率的な事業運営をしていく必要がある。

1. 経営の健全性・効率性



※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。